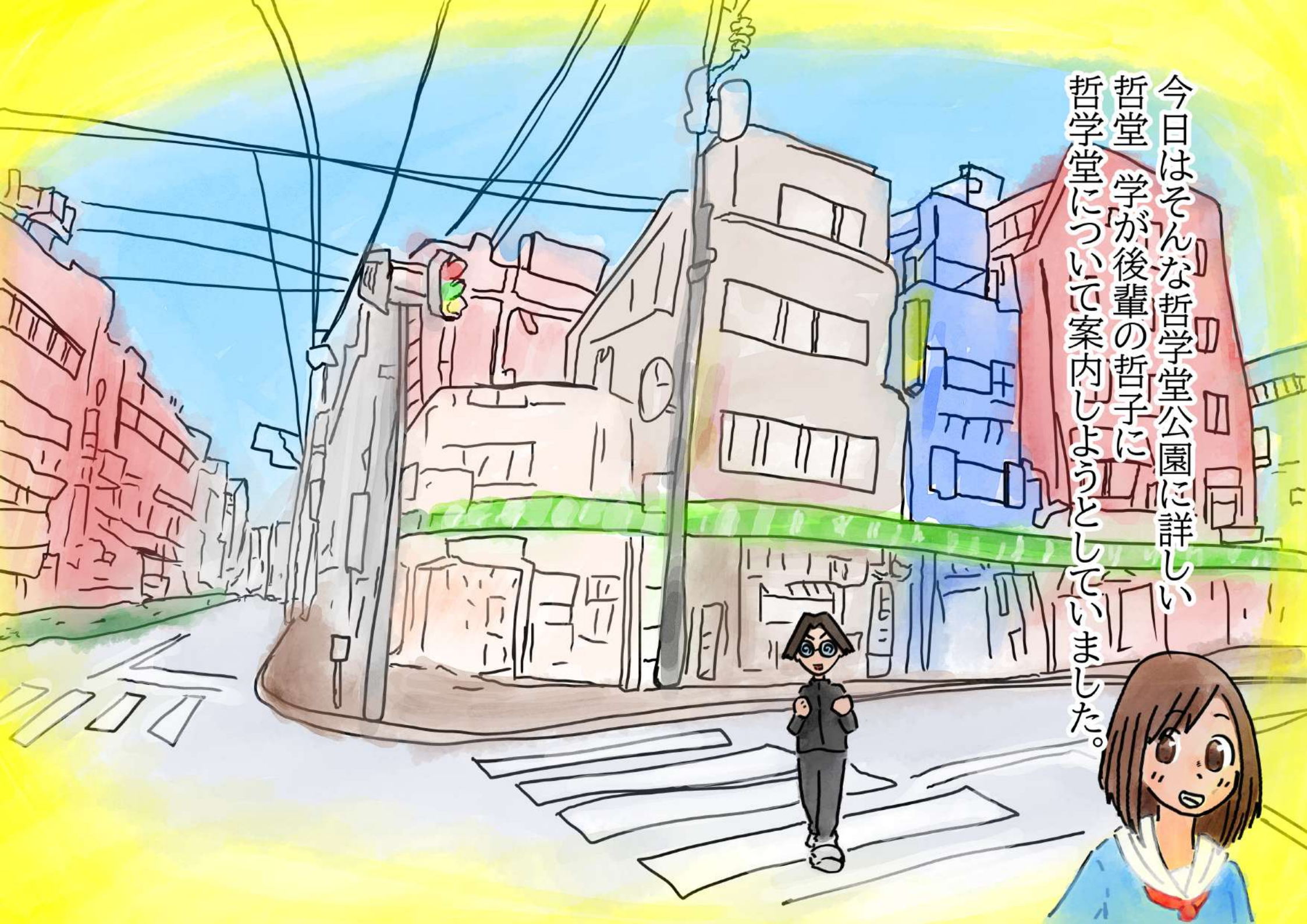
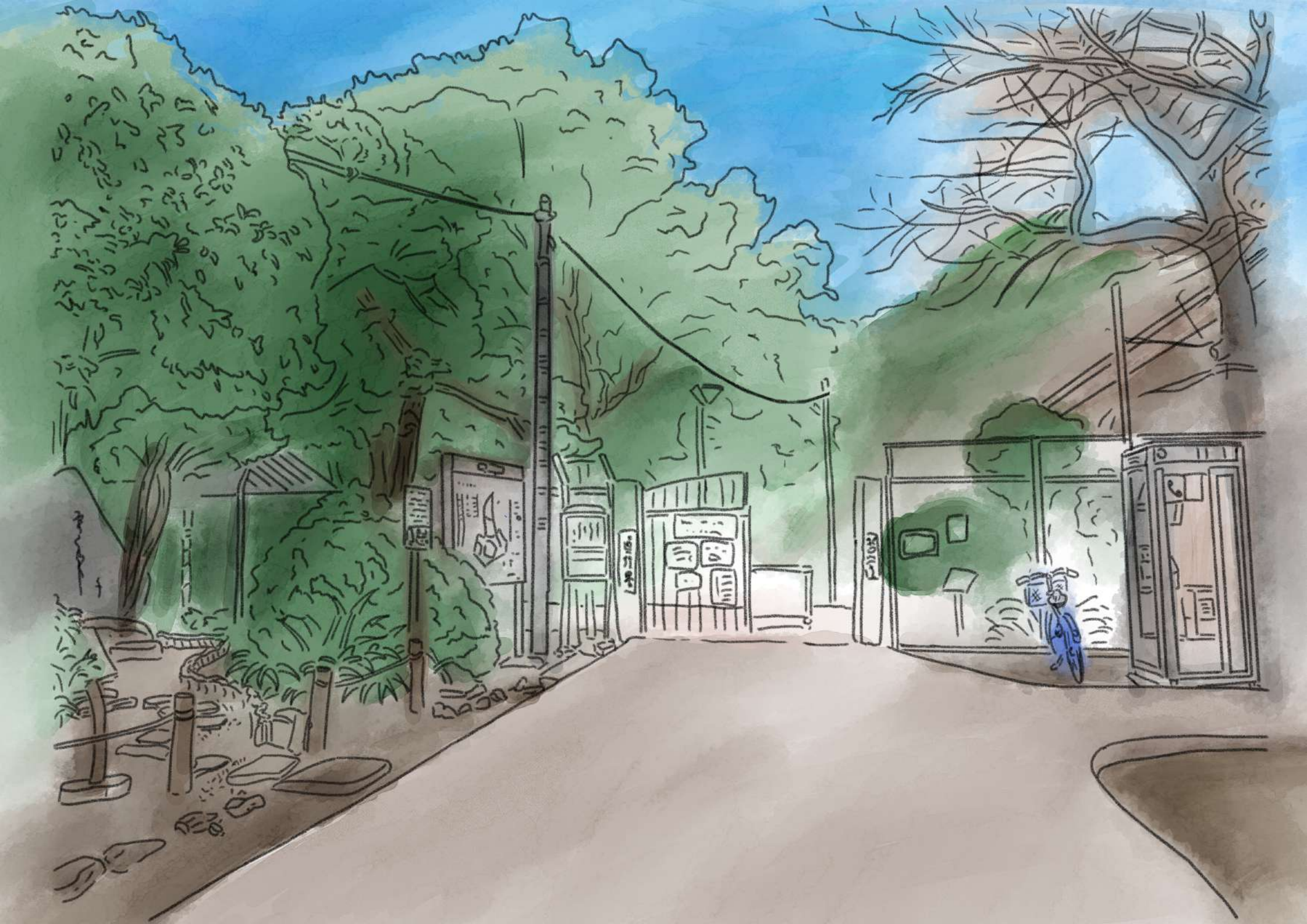
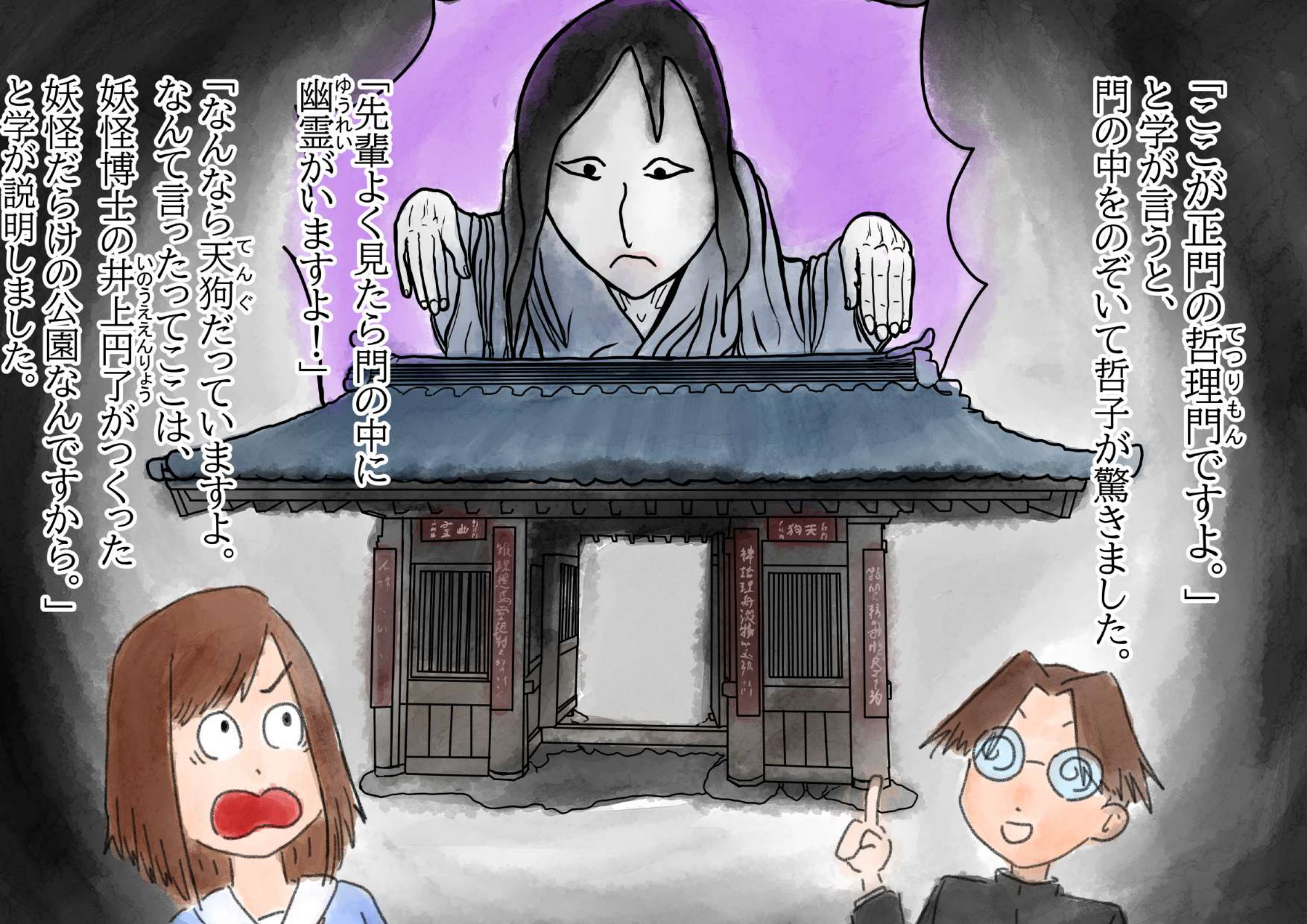
ふしぎな哲学堂

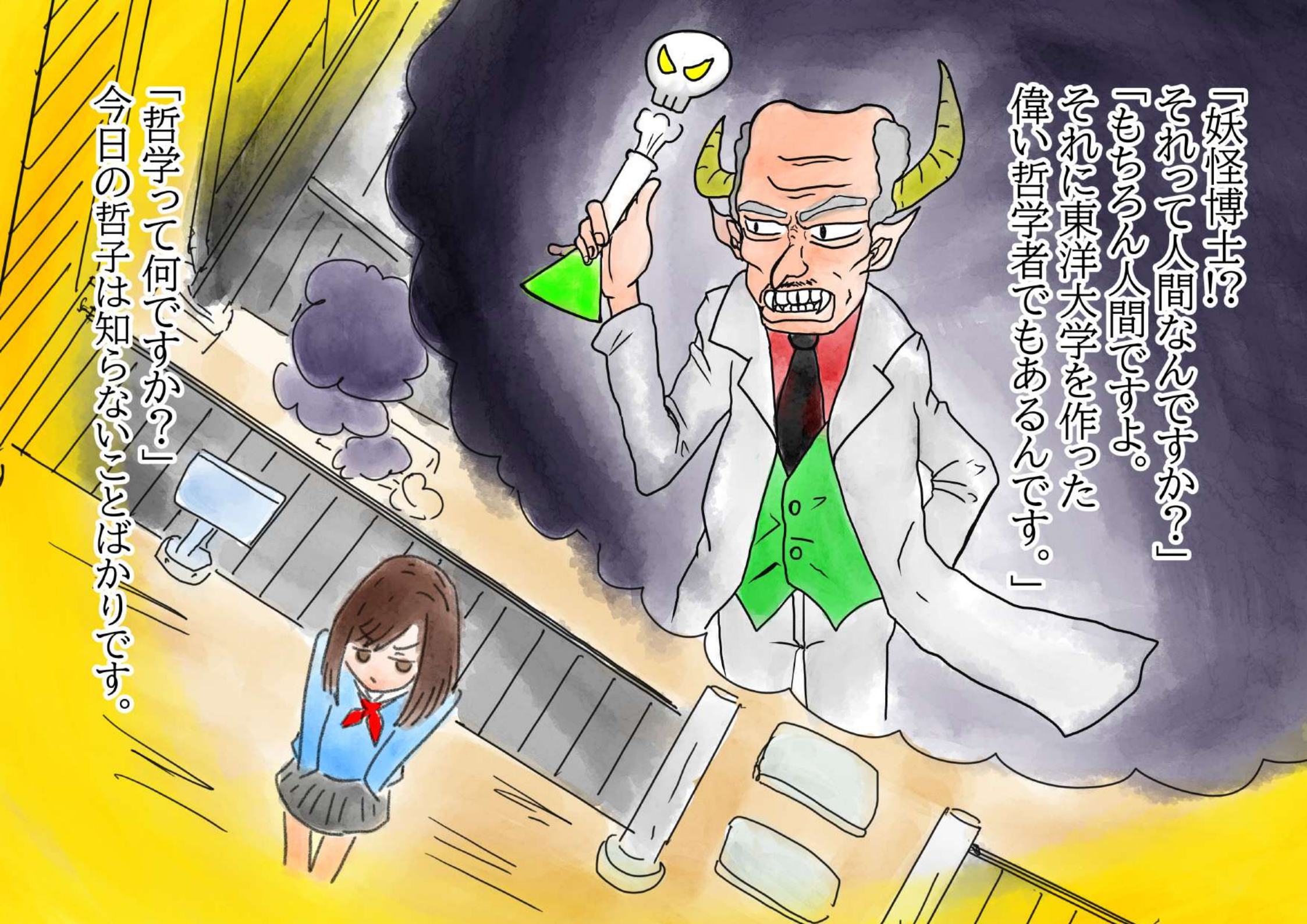
作　日本体育施設グループ
絵　東洋大学漫画研究会
監修　三浦　節夫（東洋大学名誉教授）

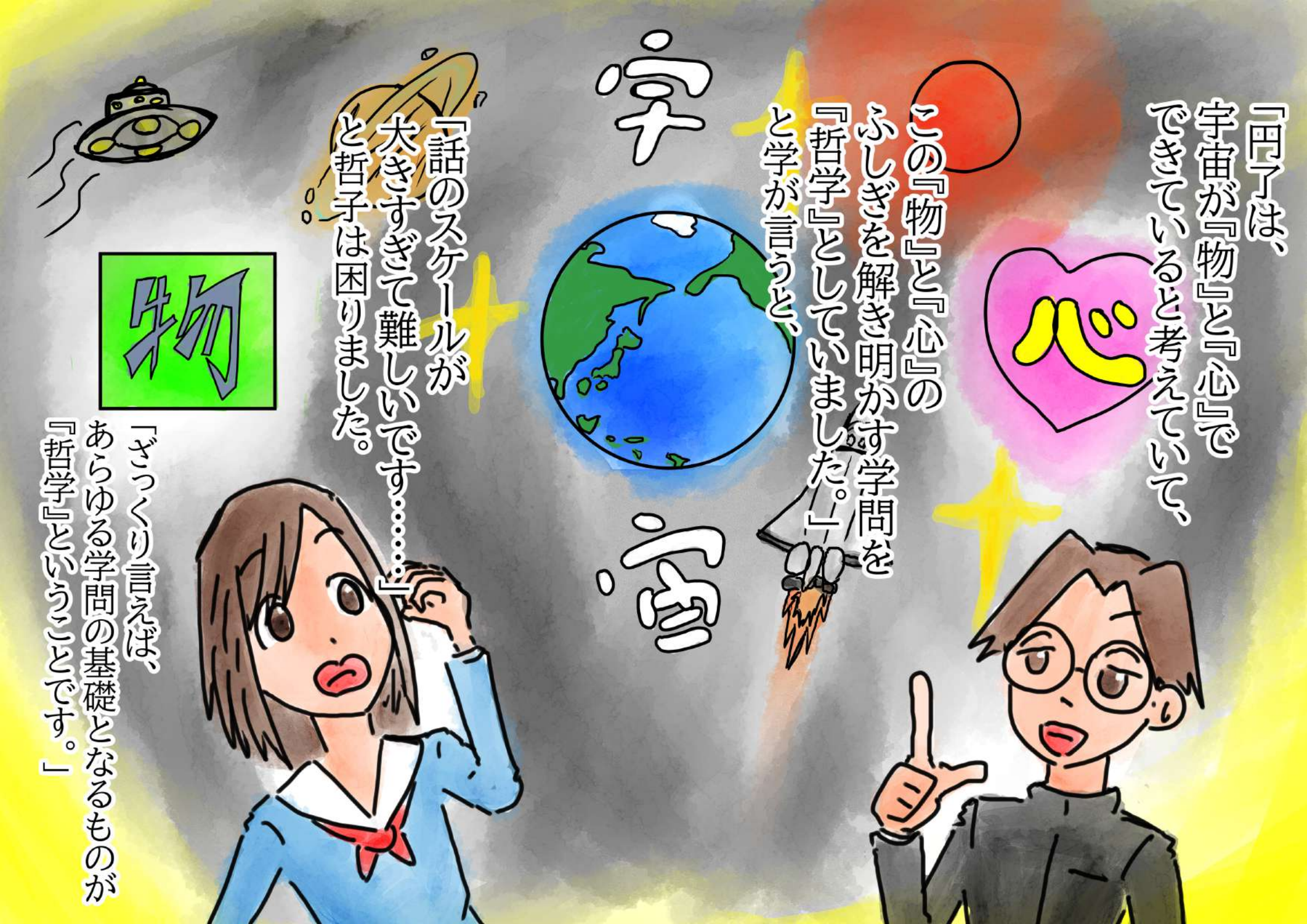
東京都は中野区、そこには哲学堂公園という
中に大きな赤い塔や妖怪の像があったりする
ふしぎな公園がありました。


今日はそんな哲学堂公園に詳しい
哲堂　学が後輩の哲子に
哲学堂について案内しようとしていました。



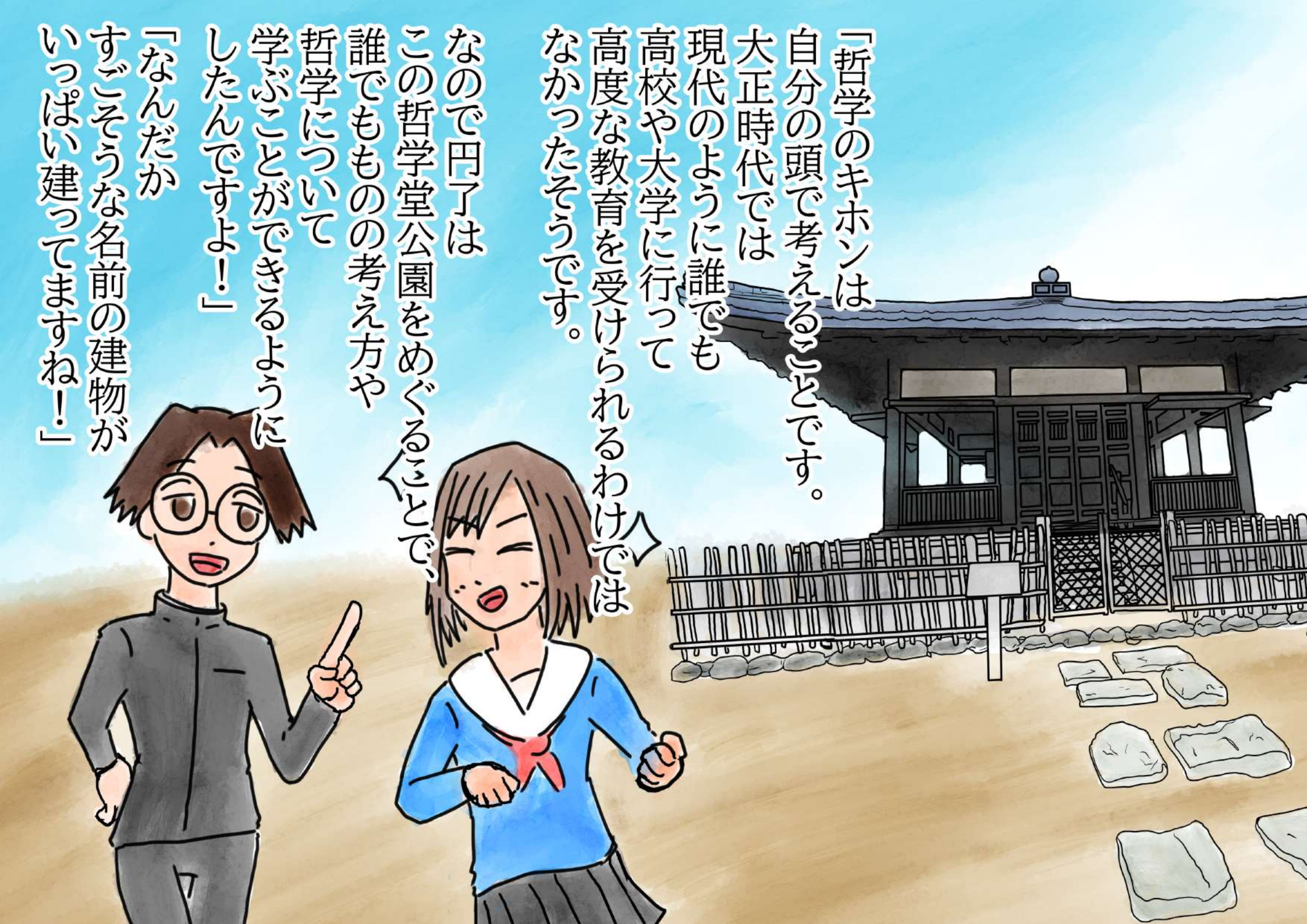

『ここが正門の哲理門ですよ。』
と学が言うと、
門の中をのぞいて哲子が驚きました。
『先輩よく見たら門の中に
幽霊がいますよ！』
『なんなら天狗だっていますよ。
なんて言ったってここは、
妖怪博士の井上円了がつくった
妖怪だらけの公園なんですから。』
と学が説明しました。

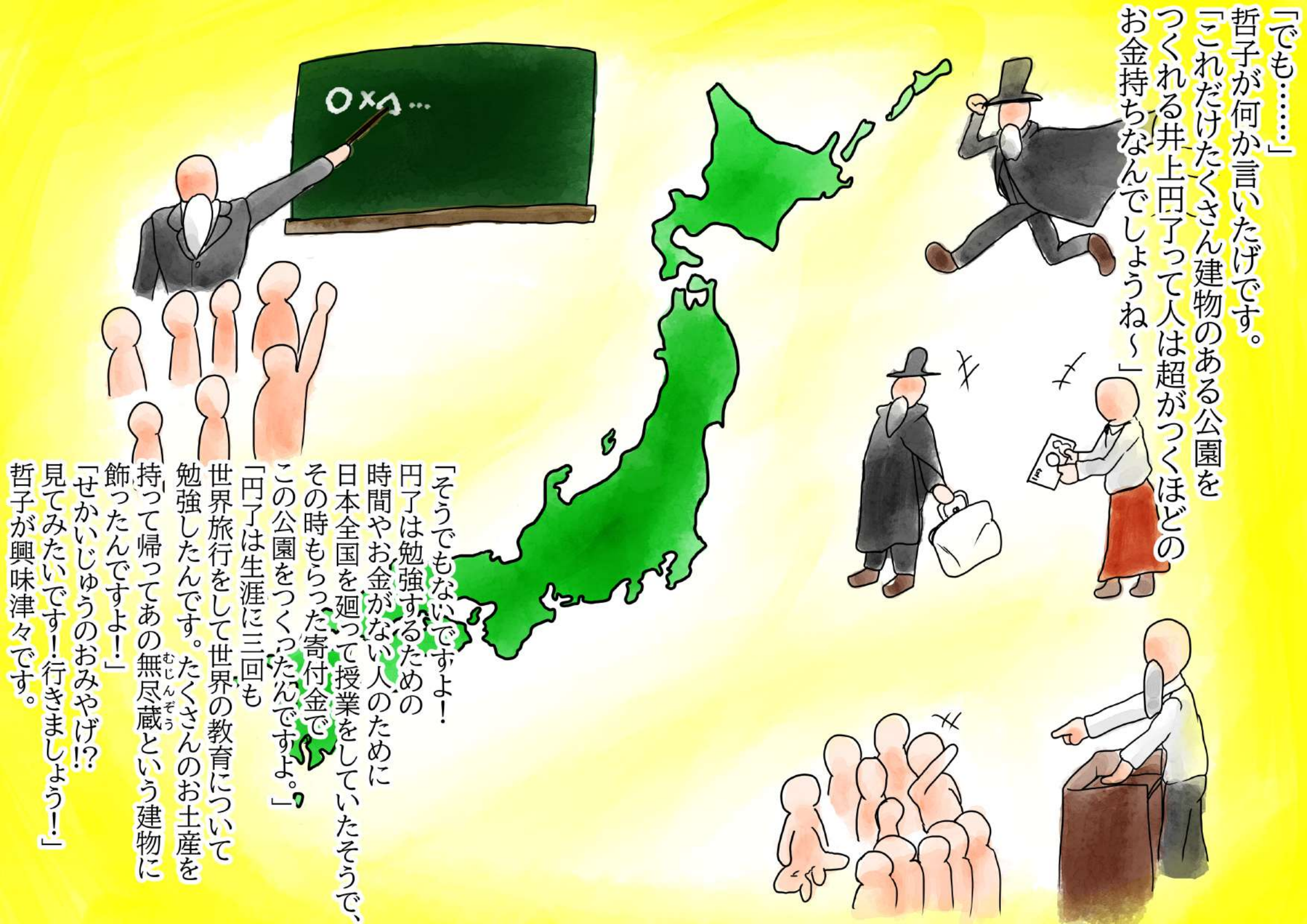

『妖怪博士!
それって人間なんですか?』
『もちろん人間ですよ。
それに東洋大学を作った
偉い哲学者でもあるんです。』
「哲学って何ですか?」
今日の哲子は知らないことばかりです。

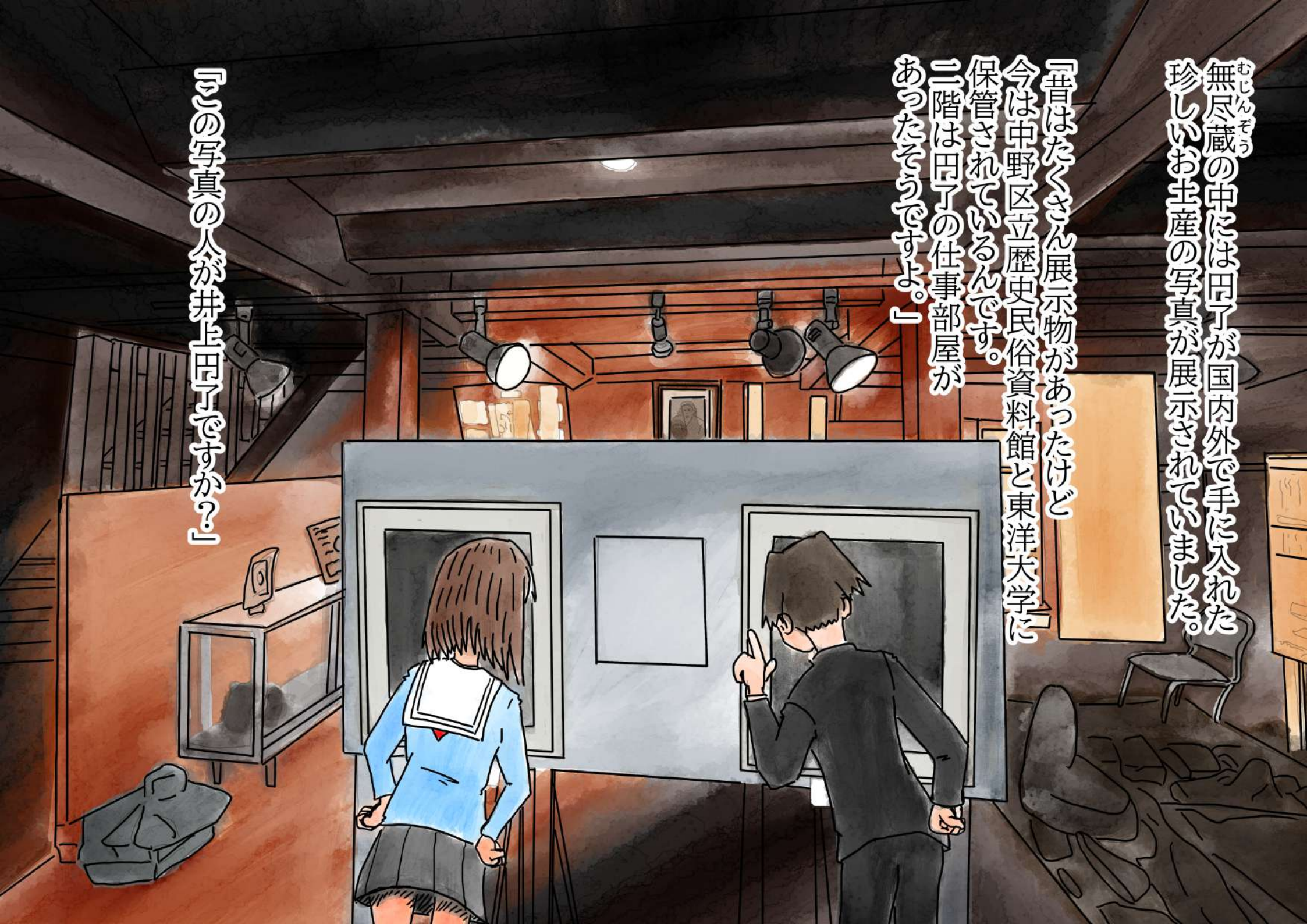

「円了は、宇宙が『物』と『心』でできていると考えていて、
心
この『物』と『心』のふしぎを解き明かす学問を『哲学』としていました。」と学が言うと、
宇宙
「話のスケールが大きすぎて難しいです……」と哲子は困りました。
物
「ざっくり言えば、あらゆる学問の基礎となるものが『哲学』ということです。」

「じゃあなんでそんな人が
妖怪博士って呼ばれてるんですか？
やっぱり妖怪なんじゃ……」
「円了は、人々が恐れる妖怪も
『宇宙のふしぎ』のひとつと考え研究していました。
そうした中で、トリックや自然現象といった
『偽物の妖怪』の正体を科学の力で
バンバン暴いていったことから
『妖怪博士』と呼ばれているんです。」
と、学が言いました。

「一方で、円了が活躍していた
大正時代の科学ではどうしても
解明できなかった不思議もあり
それを『本物の妖怪』として、
その正体の解明を先の時代の宿題にしました。」


「哲学のキホンは
自分の頭で考えることです。
大正時代では
現代のように誰でも
高校や大学に行って
高度な教育を受けられるわけでは
なかったそうです。
なので円了は
この哲学堂公園をめぐることで、
誰でもものの考え方や
哲学について
学ぶことができるように
したんですよ！」
「なんだか
すごそうな名前の建物が
いっぱい建ってますね！」


「でも……」
哲子が何か言いたげです。
「これだけたくさん建物のある公園をつくれる井上円了って人は超がつくほどのお金持ちなんでしょうね～」
「そうでもないですよ！円了は勉強するための時間やお金がない人のために日本全国を廻って授業をしていたそうで、その時もらった寄付金でこの公園をつくったんですよ。」
「円了は生涯に三回も世界旅行をして世界の教育について勉強したんです。たくさんのお土産を持って帰ってあの無尽蔵という建物に飾ったんですよ！」
「せかいじゅうのおみやげ!?見てみたいです！行きましょう！」
哲子が興味津々です。


無尽蔵の中には円了が国内外で手に入れた
珍しいお土産の写真が展示されていました。
「昔はたくさん展示物があったけど
今は中野区立歴史民俗資料館と東洋大学に
保管されているんです。
二階は円了の仕事部屋が
あったそうですよ。」
「この写真の人が井上円了ですか？」

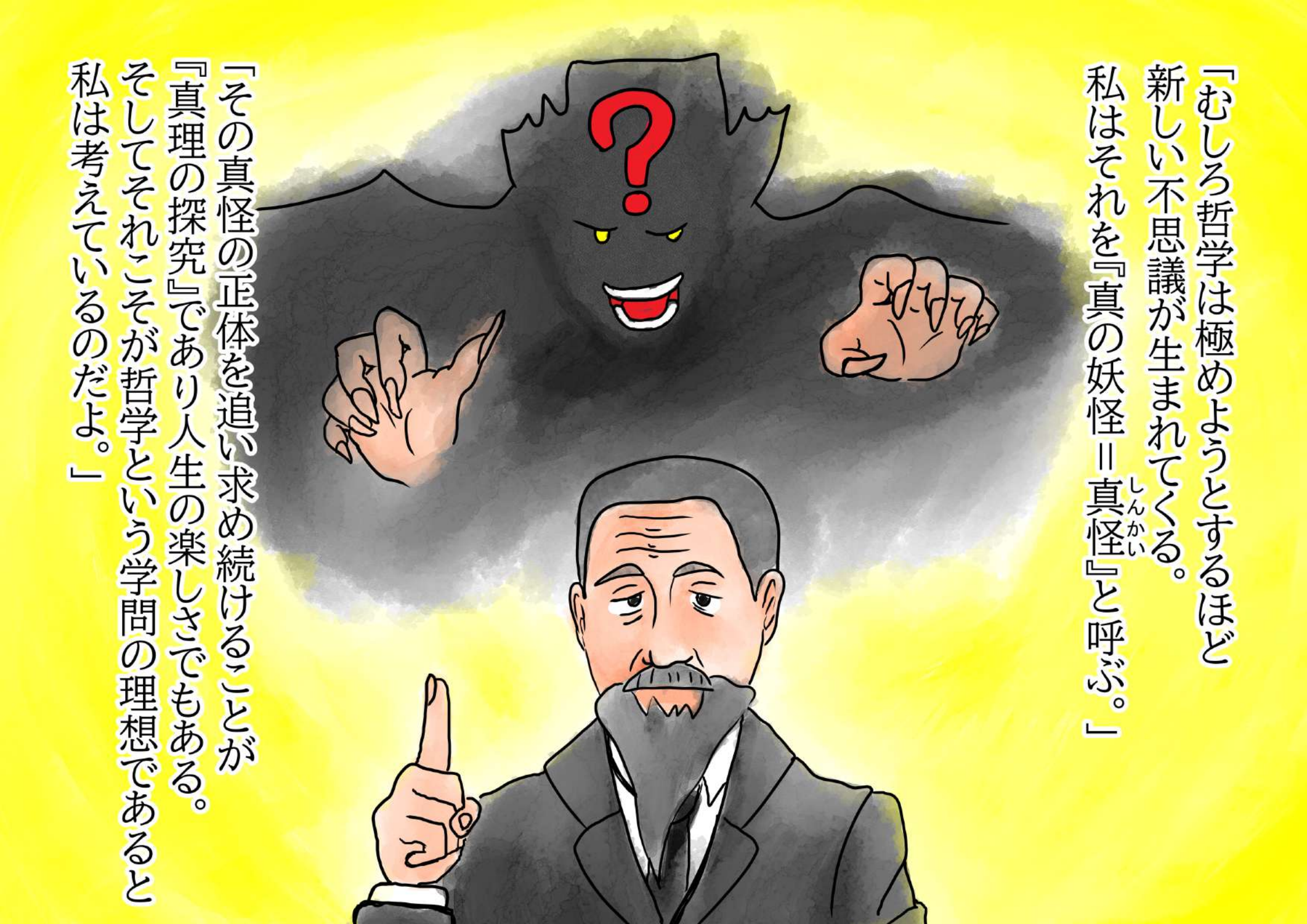
「はいどうも井上円了です。
哲学について教えてあげよう。」
なんと壁に掛けてある写真から円了が
飛び出てきました！
「うわぁ～～～!!しゃべった～～～～!!」
突然の出来事に二人ともとても驚きました。
「ほ、本物の円了さんに会えるなんて
感激です！」
「先輩さっきまで呼び捨てだったじゃないですか！」

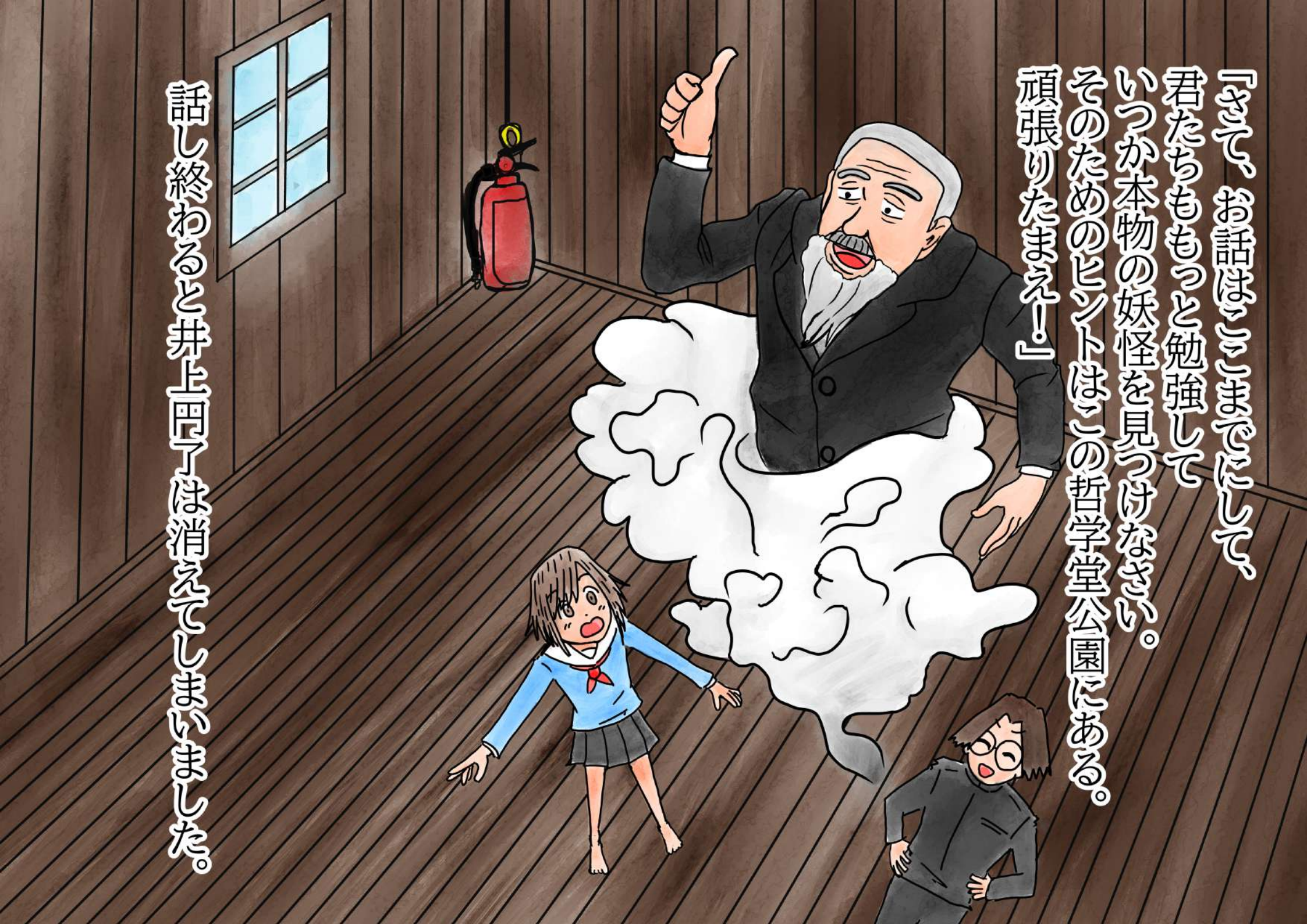
井上円了が二人に哲学について説明してくれました。

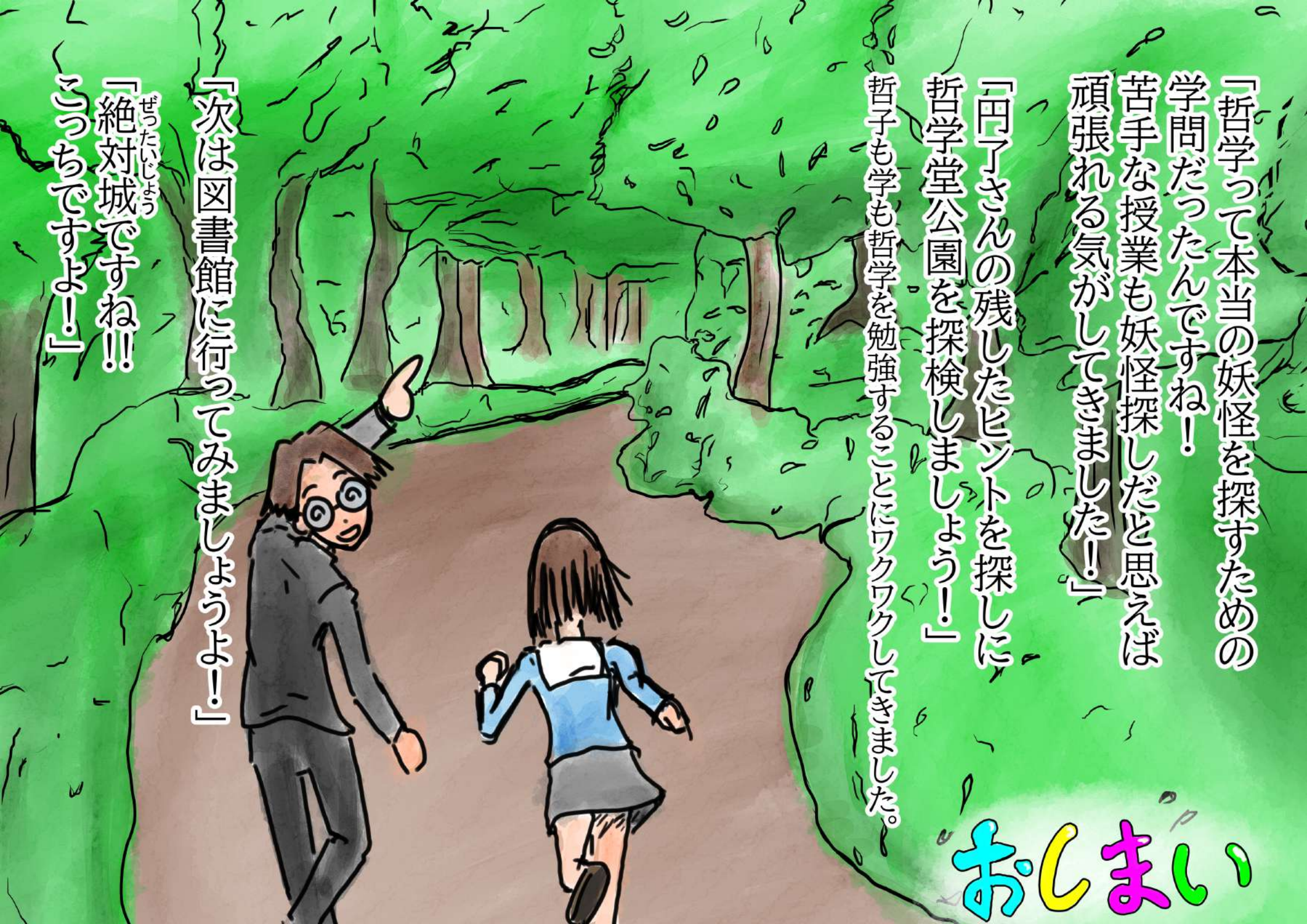
「哲学の歴史はいわば流れ続ける長い長い川のようなもの。
解き明かされた宇宙のふしぎを知識として身につけ、
また別の不思議を解き明かしてゆく・・・
それが繰り返されて哲学は今日まで
弛むことなく発展してきた。
そしてそれを文字にしたものが
学術書であり、君たちが
日頃目にしている学校の教科書もその一つだ。」

学が質問しました。
「では、この世のすべての学術書を
読み尽くせばこの世のすべてを
知ることができるのですか？」

「実はそうでもないのじゃ。」
円了が答えます。


「むしろ哲学は極めようとするほど
新しい不思議が生まれてくる。
私はそれを『真の妖怪＝真怪（しんかい）』と呼ぶ。」
「その真怪の正体を追い求め続けることが
『真理の探究』であり人生の楽しさでもある。
そしてそれこそが哲学という学問の理想であると
私は考えているのだよ。」


「さて、お話はここまでにして、
君たちももっと勉強して
いつか本物の妖怪を見つけなさい。
そのためのヒントはこの哲学堂公園にある。
頑張りたまえ！」
話し終わると井上円了は消えてしまいました。


「哲学って本当の妖怪を探すための学問だったんですね！苦手な授業も妖怪探しだと思えば頑張れる気がしてきました！」
「円了さんの残したヒントを探しに哲学堂公園を探検しましょう！」
哲子も学も哲学を勉強することにワクワクしてきました。
「次は図書館に行ってみましょうよ！」
「絶対城ですね!! こっちですよ！」
おしまい